

自己評価表

愛媛県立東温高等学校

学校番号 27

教育方針	1 学科の特質と生徒の実態に即した特色のある教育を、地域との連携を保ちながら展開する。 2 自ら学び、自ら考える力を育て、一人一人に「確かな学び」を獲得させる教育を実践する。 3 公共の学びや体験活動に努め、広い視野を持って時代を拓く人間性、社会性の育成を図る。	重点目標	生きる力をはぐくみ、共に学び高めあう教育の推進 —社会に貢献できる人間性豊かな生徒の育成を目指して—
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学校全般	学校生活への支援	すべての生徒が楽しく有意義な学校生活を送っていると感じるよう、あらゆる教育活動で支援に努める。	A	生徒が楽しく有意義な学校生活を送っているか、及び本校で教育を受けることの満足度で、生徒・保護者ともに高い評価を得ることができた。	1年生に対して、早く学校生活や授業ペースに慣れるよう支援し、2・3年生に対しては進路目標を実現するための中・長期的な指導を実践する。
	教育課程の編成	生徒の多様な進路希望に応じた教育課程について、理解を得られるよう工夫するとともに、運用上の問題点についても対策を講じて、より効果的なものにする。	A	生徒の進路や実態に応じた適切な類型、コース、科目選択の設定に関する項目で、生徒・保護者ともに90%を超える肯定的な評価を得ることができた。	高校説明会や中高連絡協議会を通じて、本校の学科・類型・コースに関する理解を更に深めてもらうとともに、教育課程研究委員会で検証していく。
学習指導	教科指導の充実	授業を最重視した学習習慣を確立させるとともに、すべての生徒に「分かる授業」を推進する。	B	生徒の、授業者に対する評価では比較的高い評価を得ることができたが、生徒自身の授業に対する取組では反省点も見られた。	アクティブ・ラーニングの導入など、生徒が自発的に参加できる授業改善への取組を推進するとともに、習熟度別講座編成等効果的な授業形態の実践・検証を行う。
		家庭学習時間の確保や授業改善を目的として共通実践月間目標を設定し、授業と家庭学習の一体化を図る。	B	進路目標が具体化し、その実現に向けて計画的な学習を進めている生徒もいるが、家庭での学習時間が極端に少ない生徒も見られた。	家庭学習時間調査の結果検証など、教員の共通理解を図るとともに、生徒に対して学習の成果が実感できるような評価の在り方を研究・実践する。
進路指導	進学指導の充実	基礎学力を定着させるとともに、各科・コースに応じた高い位置での自己実現を目指して、最後まで粘り強く挑戦させる。	A	昨年度より15名多い110名がセンター試験を受け、高い目標を掲げて受験に臨んだ。また、生活文化・スポーツ健康類型・商業科の進学希望者は12月時点でほぼ100%が進学先を決定した。	保護者との連絡を密にし、家庭・学校との一体感を持って指導することにより、高い目標を持たせ、それに向けて努力する姿勢を養う。
	就職指導の充実	就職に必要な学力や人間性を養わせ、インターンシップや企業見学などに積極的に参加することで、社会に貢献するためのしっかりとした職業観を身に付けさせる。	A	生徒・保護者との連絡を密にした結果、比較的早期に内定を受けることができた。2次以降の粘り強い指導や、本人の努力により、1月で100%の内定となった。	確かな職業観を身に付けさせ、主体的な就職活動を実践させるとともに、本人・保護者との連絡を更に密にし、より迅速な情報提供や指導に努める。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	心のもった挨拶の励行、端正な身だしなみの徹底、交通安全教育の推進について、継続的に粘り強く指導を行う。	B	ほとんどの生徒が基本的な生活習慣が身に付いており、落ち着いた学校生活を送ることができた。	日々の声かけ指導と家庭との連携をきめ細かく行い、基本的な生活習慣の確立に努める。
	生徒理解への取組	年間6回以上の個人面談を実施し、生徒理解に努める。また、欠席が気になる生徒にはその都度、臨時家庭訪問を実施し、家庭と連携を密にする。	A	担任と学年主任が中心になってきめ細かな指導を継続することができた。結果として、いじめ認知件数0、退学者・転学者数が近年では最も少なくなった。	教職員一人で問題を抱え込むことのないように、学年団や各課との協働を一層進め、“チーム東温”の下で指導を実践していく。
特別活動	学校行事の充実	各学校行事に生徒自ら意欲的に参加する態度の育成を図り、充実感や達成感を感じ取らせるように努める。	A	ほとんどの生徒が学校行事に意欲的・積極的に参加し、充実感や達成感を感じ取ることができた。	今後も継続して学校行事に生徒自ら意欲的に取り組む態度を育成するとともに、充実感や達成感を得られるように努める。
	部活動の充実	部活動やボランティア活動、対外行事にも主体的に参加できる機会を増やし、自主的に活動できる環境を整え、高い目標を目指すように努める。	A	部活動においては高い目標を持って活動する場面が多くなってきた。ボランティア活動や地域の対外行事においても部活動単位で積極的に参加する機会が増えた。	部活動やボランティア活動にも自主的に活動できる環境を整え、高い目標に向かって意欲的に取り組めるように一層の充実を図っていく。
人権教育	人権・同和教育の充実	人権が尊重される教育の場としての学校・学級の確立に努めるとともに、生徒に同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決を図っていくための実践力を養わせる。	B	人権が尊重される教育の場の確立には成果があったが、生徒の実践力の養成については、保護者・教員の評価と生徒の評価とに若干の差が見られた。	これまでの取組を地道に継続するとともに、全ての教育活動において人権・同和教育が一層推進されるように、教職員の人権意識の啓発等に取り組む。
道徳教育	道徳教育の充実	人間としての在り方生き方の基盤となる道徳性を身に付けさせ、自律・社会連帯の精神を養わせるとともに、義務を果たし責任を重んずる道徳的実践力の向上を図る。	B	全体としては、社会のルールやマナーを守る態度を身に付けることや清掃活動等に対する生徒の意識は向上しているが、一部の生徒にやや低下の傾向が見られた。	これまでの取組を地道に継続することで、全ての教育活動において、生徒の自尊感情の育成と、自己有用感の一層の高揚を目指す。
安全教育	安全教育の充実	安全に関する意識を高め、事件・事故を未然に防止する能力を身に付けさせるとともに、万一の際の事後対応能力を高め、学校や地域社会の安全に貢献できる資質を養わせる。	A	重大事件・事故の発生が無く、自転車乗車中のヘルメット未着用指導者数も3年連続で減少した。地域の安全や安心に貢献できる生徒が育ってきた。	自分の命は自分で守る意識をしっかりと持たせ、ヘルメット着用率100%、ヘルメット未着用指導者0人を目指し、交通安全に対する意識の向上を図る。

※ 評価は5段階（A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった）とする。